

## ● 事業のきっかけ ●

丸山地域福祉センター(以下、センター)と「あけぼの学園」は、どちらも神戸市総合療育センター内にあります。丸山ふれまちは、「丸山はひとつ」を合言葉に、地域交流を増やす取り組みを進めており、「せっかく同じ建物にあるのだから」と、平成16年ごろから1年に一度、ふれまちや地域の方が園を訪問するようになりました。当初は一方通行の交流のところ、平成20年ごろから、園の見学後、センターに移動して茶話会を行うようになり、園生、地域の方双方の出し物を鑑賞しながら、歓談するという現在の形になりました。

## ● UDのポイント・地域特有の取組 ●

交流会前半では、地域の方が園を訪問し、3つの作業班を見学。①木工作業、②紙工作業、③解体作業を、園生は緊張しながらも、分かりやすく説明し、実演。地域の方々には、「あけぼの学園クイズ」が配られ、答えは園生に聞いてもよいので、自然と交流が生まれる工夫がされています。あちらこちらのグループで、園生の手際の良さや日々の取り組みに感心しながら、口々に質問が出て、園生への理解が深まっているようでした。

交流会後半は、全員でセンターへ移動して茶話会。地域の方々、園生の和やかな談笑のなか、「クイズの答え合わせ」「ふれまち民謡部のよさこい踊り」とプログラムが進み、最後は、園生全員が舞台に並び、「合唱」を披露。地域の方々にも、誰もが歌えるように歌詞カードが配られ、今、流行のNHK連続テレビ小説のテーマ曲「365日の紙飛行機」の大合唱で盛り上がりました。

## ● 期待されるUDの効果 ●

今回の交流会では、園生もわきあいあいとした雰囲気、冗談も飛び交っていました。ところが、以前は、地域の方々の園や園生への理解が深まっても、なかなか園生が打ち解けなかったとのこと。しかし、園生が毎朝のジョギング時に交わす地域の方々との挨拶、ふれまちなふれあい喫茶への園生の定期的なお手伝いなど、日々の取り組みの積み重ねから、園生、地域の顔が見える関係ができていったそうです。

「普通の学生でも社会に出て行くのは大変だから、園生はなおさら。ふれまちとの交流で、知らない大人との接し方を身につけるなど、社会に出て行く準備に、少しでも支援ができれば。」と委員長。このような取り組みを通じて、社会生活に適応しにくい人々への理解が深まり、地域の助け合いの心が醸成され、地域の皆さんが安心して暮らせるまちになっていくことが期待されます。

## &lt;児童発達支援センター「あけぼの学園」&gt;

神戸市総合療育センター内にあります。

中学校卒業後、18歳までの園生が、生活支援を受けたり、職業訓練などを行い、社会で自立する準備をしています。

作業訓練は、次の3作業があり、

- ①木工作業(パズルなどを製作し、園、バザーなどで販売)
  - ②紙工作業(お菓子の箱を折っています)
  - ③解体作業(スーツケースを分解し、リサイクル)
- 園生は約2ヶ月ごとに作業を変えて訓練しています。



「あけぼの学園」の木工製品 とてもきれいな仕上がり



園生の活動を見学(紙工作業の様子)



交流会の様子(みんなで大合唱)



園生も後片付け

UD  
サポーター  
より

年に一度の交流会ですが、地域の方々とおけぼの学園の生徒さんのすばらしいコミュニケーションを見せて頂きました。あけぼの学園の生徒さんがいつもの学習風景を皆さんに見ていただけると張り切っていたのが印象的でした。地域の皆さんとの交流が、地域全体を明るくしていただけたことを実感させて頂き、こころのUDを見せていただけました。ありがとうございました。(K)

## ● 事業のきっかけ ●

平成22～23年ごろ、若草町で孤独死が3件発生しました。地域としては大変ショックなできごとで、「我々が高齢者の見守りを」と、平成24年度に地域の有志による「若草フレンドリーチーム」(以下、WFT)が立ち上がりました。WFTは、地域に住む高齢の希望者を対象に、見守り、安否確認だけでなく、家事や通院など生活支援を行います。この取り組みは、ふれまち事業として実施しており、平成25年度からは規約も作成し、体制も整えています。

## ● UDのポイント・地域特有の取組 ●

WFTの多数ある支援の中から、庭仕事支援を紹介します。この日は、庭の手入れで困っている高齢者宅へ。WFTの行動委員6名が、9時前から作業開始。生垣や樹高2～3メートルのアオキやキンモクセイなどを慣れた様子で刈り込み、剪定くずをゴミ袋に詰める、雑草を抜くなど、効率よく分業して、1時間ほどで作業終了。そして、休憩もなく「お疲れ様」とあっさり解散されました。

作業は、できるだけ短時間で終了するよう、作業量により人数を調整しているそうです。このほかにも、素人には危険な高木剪定の依頼は断る、ボランティア保険に加入する等の安全への配慮もあり、行動委員に参加しやすい工夫がされています。

支援業務では、支援対象者からわずかながら負担金をもらっています。この負担金はすべてプールされ、毎年行われる地域のさくら祭りの資金になっています。春、見事な桜が見られる公園で、餅つき、児童館の発表や吹奏楽の演奏などが行われ、さくら祭りは、子どもから高齢者までが楽しめる地域の交流の場となっています。

## ● 期待されるUDの効果 ●

若草町は、昭和50年の街開き当時から、下水道の整備や集会所の建設等に住民自らが関わり、課題解決に取り組んでこられた土地柄だそうです。高齢化が進む中、「高齢になっても、住み慣れたまちに安心して住み続けたい」という新たな地域課題が、WFTという新たな取り組みと他の活動との相乗効果から解決につながっていくことが期待されます。



分業もスムーズ



1時間の作業の成果



さくら祭りの様子

## &lt;若草フレンドリーチームの活動～規約より～&gt;

(目的)

高齢化社会に対応するため、若草町居住の高齢者等の生活支援および保護活動を目的とする。

(支援対象者)

65歳以上の虚弱な方、後期高齢者で希望する方

上記以外で、本人、または親族等から申し入れがあり、WFT会議で認められた方

(支援する業務)

- ①家事援助サービス:掃除、洗濯、買い物等
- ②外出介助サービス:通院、外出介助等
- ③高所の作業、電球交換等日常的な困りごと
- ④見守り、安否確認

UD  
サポーター  
より

自分たちで立ち上げ、組織を作って、実際に活動することは、大変だろうと思います。その原動力は、高齢者の見守りはもちろん、街開きからの自治会、下水道、私道の整備などを経験して何十年もの積み重ねもあるかと思いました。負担をかけない活動として、「短時間」「昼食までにすませる」ことも大きなポイントかと感じました。(Y)